



株主の皆様へ
第80期 事業報告書

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで



株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成16年10月1日に新会社「トヨタ紡織株式会社」がスタートして半年が経過しました。おかげさまで、合併に伴う統合が順調に進み、業績は良好なものとなりました。ここに、当社の第80期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）の業績をご報告するとともに、当社の今後の経営方針についてご説明いたします。

●事業の概況

自動車業界におきましては、国内販売は減少したものの、欧州向け輸出の増加により国内生産全体では前年を上回りました。特に、主要取引先であるトヨタ自動車株式会社の新型車投入や拡販努力による生産台数の増加が、当社の内装システムやフィルター製品の生産拡大につながりました。なかでも、かねてより強化を図っておりました内装システムは、国内ではクラウンマジェスタ、マークX、ヴィッツなど10車種、海外ではタイ、インドネシア、アルゼンチン、インド、フィリピン、マレーシアにおいて世界戦略車IMVシリーズが生産開始となりました。また、フィルターでは、キャビンエアフィルター、オートマチック・トランスミッション用フィルターの生産が拡大しました。グローバル展開では、中国で、他社との合併を含めて4社、ベトナムで1社、フランスで1社、生産子会社を新たに設立し、生産拠点の拡充に努めました。

●業績の概況

当期の連結売上高は、合併および増産効果などにより、前期に比べ3,378億円（284.9%）増加の4,563億円となりま

した。連結経常利益は、労務費の増加や製品価格変動の減益要因があった一方で、合併および増産増収の効果や原価改善に努めた結果、前期に比べ138億円（259.5%）増加の191億円となりました。連結当期純利益につきましては、合併に伴う残存価額変更による過年度償却費など23億円を特別損失に計上したものの、前期に比べ61億円（216.3%）増加の89億円となりました。

当期末の配当金につきましては、1株につき合併の記念配当として1円を加えた6円50銭とさせていただきます。昨年11月に中間配当金として1株につき5円50銭をお支払いさせていただいておりますので、年間といたしましては、前期に比べ3円増配の1株につき12円となります。

●経営方針

当社は平成16年10月1日にアラコ株式会社（内装事業）およびタカニチ株式会社と合併し、新しく「トヨタ紡織株式会社」となりました。この合併により、シート、ドアトリム、天井、カーペットなど自動車のインパネを除く内装全体が事業領域となり、技術の高度化と海外展開を一段と加速させ、新技術・新商品を世界に提供するグローバル内装システムサプライヤーとしての競争基盤を確保することができました。

当社が目指す将来の姿は世界トップレベルの内装システムサプライヤー・フィルターメーカーです。また、中期目標として、2010年代初頭には売上高1兆円、経常利益率5%以上を目指すことを掲げています。

当社のコア事業は、内装品事業とフィルター・パワートレイン機器部品事業です。

内装品事業においては、自動車メーカーへ快適な車室空間を創造する提案力を一層高めることと、事業のグローバル展開を積極的に推し進めてまいります。具体的には、品質、コスト、デリバリーをはじめとする自動車メーカーのニーズを

Vision

世界トップレベルの内装システムサプライヤー・フィルターメーカーを目指す。

- ① 快適な車室空間の提供
- ② 世界トップの自動車用フィルターの提供
- ③ グローバルな供給体制の構築

目標

2010年代初頭 売上高：1兆円超／経常利益率：5%以上

全て満たすために、技術開発力やデザイン力を強化し、商品の魅力をさらに高めると同時に、主要顧客であるトヨタ自動車株式会社のグローバル戦略の一翼を担うべく、拠点展開を図ってまいります。

また、フィルター・パワートレイン機器部品事業につきましては、エアフィルターおよびオイルフィルターの自動車メーカーの直納シェアは、世界トップクラスを誇っています。今後も自動車用フィルターのシステムメーカーとして、次世代技術の開発を通じ、社会的要請に応える商品を開発し、トヨタ自動車株式会社向けシェアを確保しながら、トヨタ自動車株式会社以外の自動車メーカーならびにアフターマーケット市場へ積極的に新商品を投入し、シェア拡大を図ってまいります。

また、「よき企業市民として社会との調和ある成長を目指す」ことを、当社は基本理念としています。今後も株主の皆様をはじめ、従業員、お客様、地域社会の皆様のご信頼に応え、絶え間ない成長を続けることを目指します。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



取締役社長

本並正直

取締役会長

好川純一

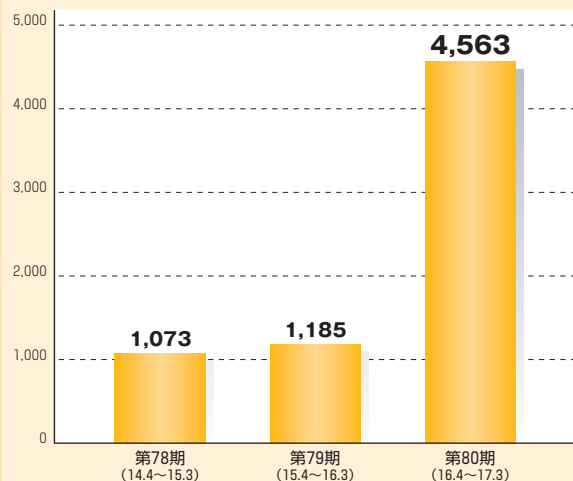
取締役副社長

豊田周平

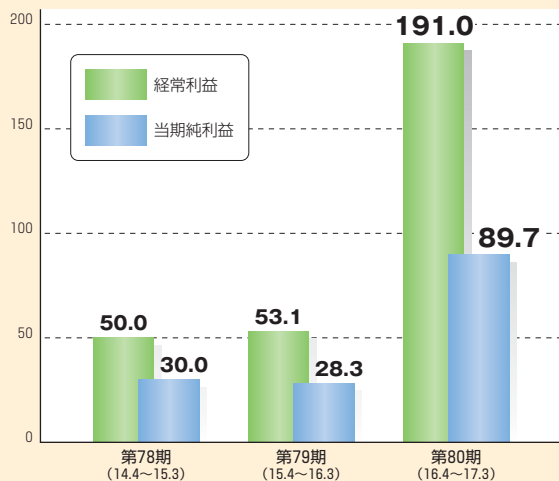
財務ハイライト

● 連結決算

連結売上高の推移 (億円)

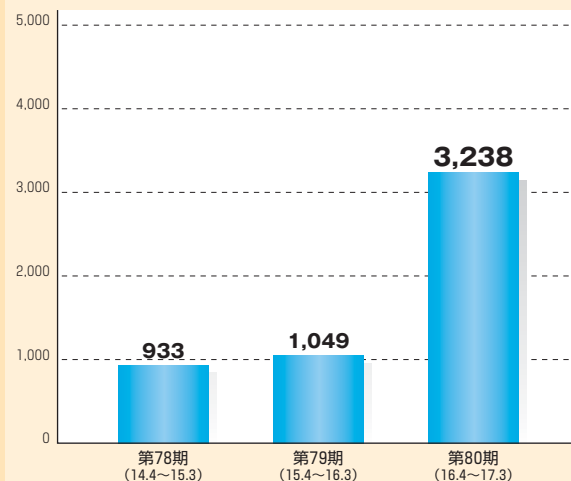


連結利益の推移 (億円)

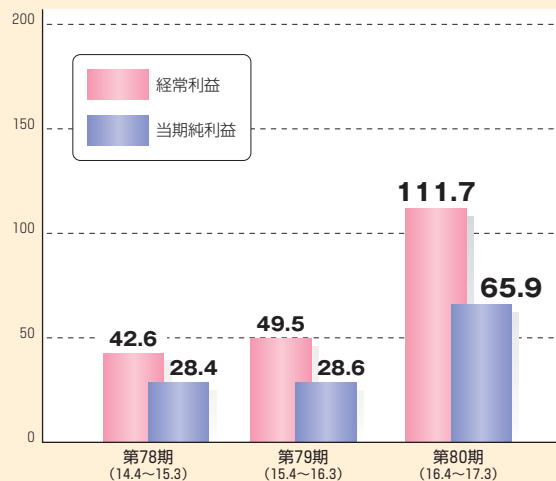


● 単独決算

単独売上高の推移 (億円)



単独利益の推移 (億円)



注1) 第78期、第79期は旧豊田紡織の数値となります。

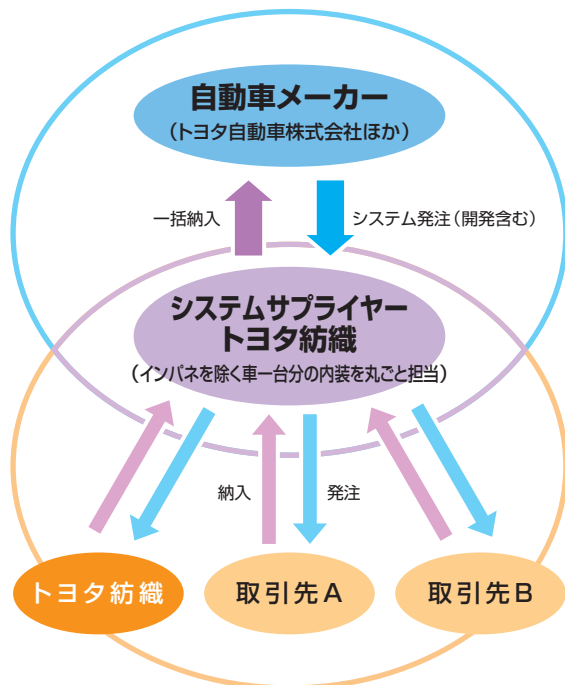
注2) 当期は、上半期(平成16年4月1日から9月30日まで)が旧豊田紡織、下半期(平成16年10月1日から平成17年3月31日まで)が新会社トヨタ紡織の数値となります。

トヨタ紡織の特長

● 開発から生産まで 一貫して担当する内装システムサプライヤー

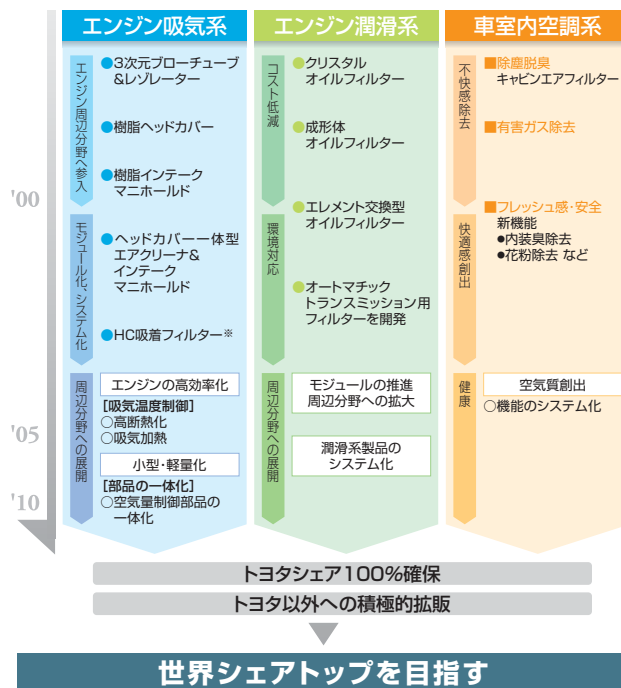
当社は、インパネを除くシート、ドアトリム、天井、カーペットなどの車室空間全体をトータルに考え、コンセプト作りから開発・設計・調達・生産までを一貫して担当する内装システムサプライヤーです。

内装システムサプライヤーである当社が、開発初期段階から車室空間全体をコーディネートすることにより、快適性・デザイン性などの自動車メーカーからの期待、安全・環境などの社会的要請にタイムリーに対応することができます。また他の部品メーカーと協力することにより、パーツやモジュールを単に組み合わせるのではなく、より統合的・効率的に商品力を高めた開発をおこなうことができます。



● 世界トップのフィルターメーカー

当社は、自動車メーカーへ直接納品するエアフィルターおよびオイルフィルターにおいて、国内では第1位、世界では第2位のシェアを有するフィルター総合メーカーです。これまで、当社の源流事業である繊維技術を活かして、最先端技術の開発に努め、より多くの物質を濾過すると同時に寿命を長くする独自のフィルトレーション技術を確立してきました。また、エンジンシステム全体、自動車全体を念頭においた製品のシステム化やモジュール化にも対応してきました。こうしたことにより、自動車メーカーに対して積極的に提案できるフィルター総合メーカーとして、高い評価を受けています。



* ガソリン蒸気吸着フィルター

セグメント情報

内装品事業 INTERIOR

内装品事業では、内装システムの開発・生産をおこなっています。ドアトリム、シート、天井、フロアカーペットなどの内装品をパーツやモジュールとして組み合わせるのではなく、車室空間全体を統合されたシステムとして考えることで、快適性、安全性、環境へのやさしさを追求しながら、新しい価値や新しい魅力を創造しています。

当期の内装品事業の売上高は、合併および増産効果により前期に比べ3,223億円(582.3%)増加の3,776億円となりました。内装システムは、14車種が生産開始となり、前期に比べて12車種増加しています。

内装システム製品



フィルター・パワートレイン機器部品事業 FILTRATION & POWER TRAIN COMPONENTS

フィルター・パワートレイン機器部品事業では、エンジン吸気系として、エンジンの高効率化や小型・軽量化に対応した吸気システム製品、エンジン潤滑系として、環境負荷量を半減したエレメント交換型オイルフィルター、車室内空調系として高性能除塵脱臭フィルターや高性能花粉フィルター等の開発・生産をおこなっています。

当期のフィルター・パワートレイン機器部品事業の売上高は、エアフィルターの増産効果により前期に比べ98億円(20.1%)増加の583億円となりました。吸気システムでは、トヨタのパッソ、ヴィッツの2車種、オートマチックトランスミッション用フィルターでは、ホンダ、アイシン精機向けにトラック用がそれぞれ生産開始となりました。また、花粉除去キャビンエアフィルターが、幅広い車種に採用されました。

吸気システム製品



エアクリナー *2



樹脂製インテークマニホールド



エアフィルター *2



オイルフィルター *2



樹脂製エアクリナー一体型
シリンダーヘッドカバー *2



キャビンエアフィルター *2



HC吸着フィルター *2※



※ ガソリン蒸気吸着フィルター

オートマチックトランス
ミッション用フィルター *2



ABSコイル



シリンダーヘッドカバー
レゾネーター *2
エアチューブ

エンジン意匠カバー
タイミングベルトカバー
回転センサー

2輪用イグニッションコイル *2
*2 : DENSOブランド品



繊維・外装品事業
TEXTILE & EXTERIOR

繊維事業では、自動車用のシートファブリック、天井表皮材及び高性能ユニフォームなどの繊維製品の開発・生産をおこなっており、新規素材開発から快適性、環境へ配慮した製品作りをおこなっています。外装品事業では、補給用バンパー、フェンダーライナー等の設計・生産をおこなっています。

当期の繊維・外装品事業の売上高は、補給バンパーの移管が大幅に進み、前期に比べ57億円(39.1%)増加の203億円となりました。

外装品

補給用バンパー



フェンダーライナー



エンジンアンダーカバー

各種ユニフォーム

快適防塵つなぎ服



高性能難燃服

シートファブリック



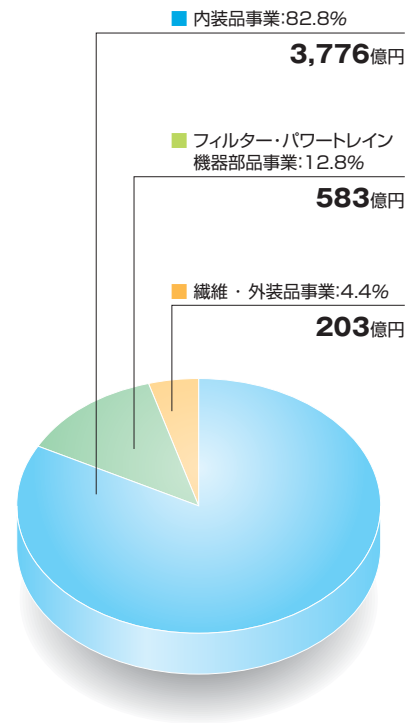
オーラムンパリーシリーズ

ひざサポーター



おやすみソックス
毛布

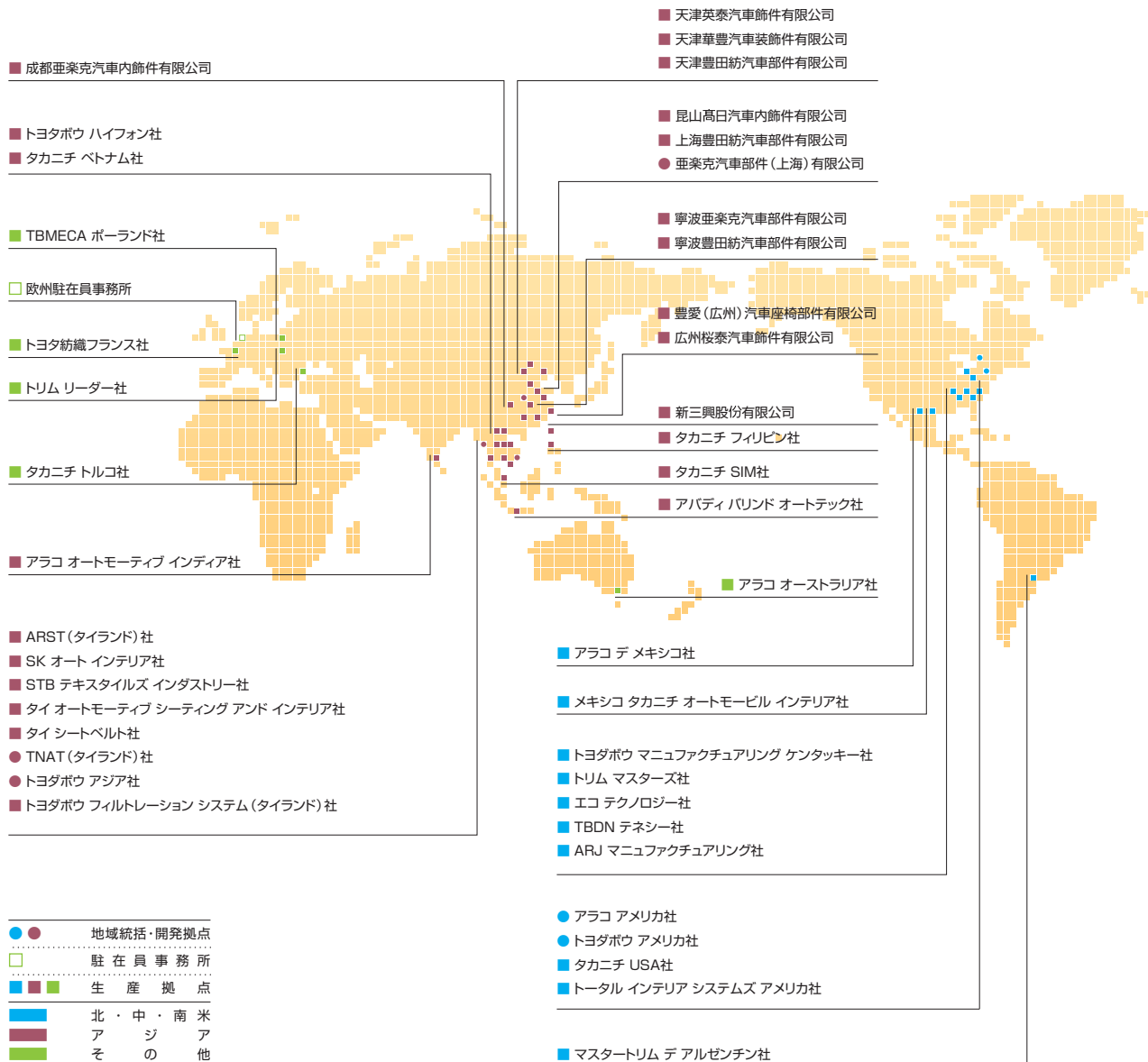
各事業の売上構成(第80期(16.4~17.3))



地域別情報

開発・生産・販売拠点

(平成17年3月31日現在)



地域別の概況

日本

JAPAN

国内売上高は、合併の効果およびトヨタ自動車株式会社のモデルチェンジや国内生産の増加により、前期に比べ2,147億円(208%)増加して、3,175億円となりました。営業利益は前期に比べて61億円(119%)増加して112億円となりました。

アジア(中国、タイ、ベトナム、フィリピン、インドネシア、インド)

ASIA

アジア向け売上高は、合併の効果およびタイ・インドネシア・インドにおいて世界戦略車IMVシリーズの内装品が立ち上がり、中国ではシートおよびシートカバーの増産により、売上高は前期に比べ200億円(526%)増加して238億円となりました。営業利益は前期に比べ14億3,800万円(46倍)増加して14億6,900万円となりました。

北・中・南米(アメリカ、カナダ、メキシコ、アルゼンチン)

NORTH / CENTRAL / SOUTH AMERICA

北中南米向け売上高は、合併の効果および北米(ソラーラ、カムリ、カローラ、タコマなど)および南米(IMVシリーズ)での内装品の立ち上がりにより、前期に比べ885億円(743%)増加して1,004億円となりました。営業利益は前期に比べて32億円(16倍)増加して34億円となりました。

その他(オーストラリア、トルコなど)

OTHERS

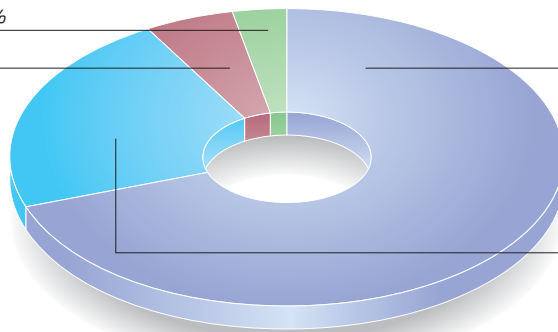
その他地域向けの売上高は、合併の効果およびトルコ(カローラ)、オーストラリア(カムリ・アパロン)の内装品の立ち上がりにより、売上高は145億円、営業利益は17億円となりました。

■ その他(オーストラリア、トルコなど) : 3.2%

145億円

■ アジア
(中国、タイ、ベトナム、
インドネシア、インド) : 5.2%

238億円



■ 日本 : 69.6%

3,175億円

■ 北・中・南米
(アメリカ、カナダ、メキシコ、アルゼンチン)
: 22.0%

1,004億円

連結子会社および関連会社

(平成17年3月31日現在)

	子会社	関連会社
日本	16社(4社)	4社(2社)
北中南米	23社(4社)	1社(1社)
アジア	22社(4社)	7社(2社)
その他	4社(0社)	1社(0社)

()内は前期

国内関連企業

(平成17年3月31日現在)

株式会社アイテック
アイホー株式会社
エーアールサービス株式会社
株式会社KYOEI ARACO
グリーン化成株式会社
クリエイトスタッフ株式会社
株式会社コベルク

タカテック株式会社
タカニチトトランスポート株式会社
TDラボラトリー株式会社
株式会社TB岩手
株式会社TBエンジニアリング※
株式会社ティービーサービス
株式会社ティービーハイテック

株式会社テクニカルリンクスデザイン
トヨタ紡織九州株式会社※
ナルコ株式会社
ハイニード工業株式会社
ファミック株式会社

※平成17年4月1日社名変更
(五十音順)

トピックス

グローバル展開

当期は合併により連結子会社35社、関連会社6社が増加し、また新たに6社の連結子会社を設立（うち1社が生産開始）、既に設立している3社が生産を開始しました。世界中のお客様の要請に、いつでも、どこでも対応できる開発・調達・生産体制を着実に現実のものにしていきます。



天津豊田紡自動車部有限公司



TBMECA ポーランド社



マスタートリム デアルゼンチン社



トヨタボウ マニュファクチャリング
ケンタッキー社

新たに設立した会社

国	設立	社名	生産品目	備考
中国	2004年6月	天津豊田紡自動車部有限公司*	フィルター	株式会社デンソーと 共同出資
		(2005年2月に生産開始)		
	2004年8月	寧波豊田紡自動車部有限公司*	シートファブリック	
	2004年9月	広州桜泰自動車飾件有限公司*	内装品	
	2004年9月	豊葵(広州)自動車座席部有限公司*	シート部品	アイシン精機株式会社 との合併
ベトナム	2004年9月	トヨタボウ ハイフォン社*	カーテンシールド エアバッグ(袋体)	
フランス	2005年1月	トヨタ紡織フランス社*	補給用バンパー	

生産を開始した会社

国	生産開始	社名	生産品目	備考
ポーランド	2004年12月	TBMECA ポーランド社★	エンジン関連部品	株式会社デンソー、 メカプラスト社との共同出資
アルゼンチン	2004年12月	マスタートリム デアルゼンチン社*	内装品	JCIとの合併
アメリカ	2004年12月	トヨタボウ マニュファクチャリング ケンタッキー社*	成形天井	

※ = 連結子会社 ★ = 関連会社

技術

内装システムサプライヤーとして国内ではトヨタ車9車種、ダイハツ車1車種
海外ではIMVシリーズが生産開始

車室空間の快適さのコンセプトづくりにはじまり、開発・設計・調達・生産まで一貫して担当する当社が目指すのは、世界トップレベルの内装システムサプライヤーです。当期は、トヨタ自動車株式会社のサイオン、クラウンマジェスタ、ノア、ヴォクシー、ポルテ、ハイエース、アイシス、マークX、ヴィッツ、ダイハツ工業株式会社のミラジーノの10車種が、海外ではタイ、インドネシア、アルゼンチン、インド、フィリピン、マレーシアにおいて世界戦略車IMVシリーズが生産開始となりました。



クラウン マジェスタ内装



サイオン tC



ポルテ



ハイエース



アイシス



ハイラックスVIGO (IMVシリーズ)

軽量・コンパクトで低コストな
自動車用吸気システムを開発

従来製品に比べ、重さを30%、体積を20%低減した自動車用吸気システムを株式会社デンソーと共同開発し、生産を開始しました。トヨタ自動車株式会社とダイハツ工業株式会社が2004年6月に発売した新型車「トヨタ パッソ」 「ダイハツ プーン」に搭載されています。



新開発の吸気システム

品質への取り組み

トップレベルの品質システム

国内7工場、海外3社において、品質マネジメントシステムが国際規格に適合していると判定され、「ISO/TS 16949※1」の認証を取得しました。今後も品質向上活動の改善に努め、この認証を維持するとともに、国内外問わず、活動範囲の拡大を図っていきます。

※1. QS-9000 (米国)、VDA 6.1 (ドイツ)、AVSQ (イタリア)、EAQF (フランス) の自動車業界の規格統合した包括的な品質マネジメントシステム規格。認証登録することで、複数の顧客の要求事項を満たすことができます。



世界トップレベルのシート品質



アメリカのJ.D.パワー・アンド・アソシエイツ社がおこなった、2004年米国自動車シート品質調査※2で、アメリカの子会社であるトリム・マスターズ社が総合1位、当社(受賞会社はアラコ株式会社)が2位を獲得しました。トヨタ紡織グループが生産するシートは、品質面で非常に高く評価されていることが証明されました。

※2. 米国で販売された新車のシートシステム全体の品質やデザインに対するユーザーの満足度を調べる調査。

環境への配慮

オール植物のシート表皮材を開発

トヨタ自動車株式会社、東レ株式会社、天龍工業株式会社と共同で、植物糖類から抽出した「ポリ乳酸」でつくられるオール植物自動車用シート表皮材を開発しました。これは、2005年3月から9月まで愛知県で開催中の「愛・地球博」のIMTS※無人運転バスに採用されています。



植物由来の原料「ポリ乳酸」からできている、自動車用シート表皮材

「愛・地球博」長久手会場の場内移動手段として活躍しているIMTS



※Intelligent Multi-mode Transit System

社会貢献

「よき企業市民」として社会との調和ある成長を目指し、地域社会の一員として、よい社会づくりに貢献したいという思いから、トヨタ紡織ボランティアセンターを開設しました。ボランティア活動のコーディネート、社外団体とのタイアップによる社会貢献プログラムの運営、災害義援金、救援物資募集の社内展開などを行っています。



2004年11月、労働組合と共催で、刈谷工場周辺の子ども会と社員に募った参加者とともに「いもほり大会」を開催。自然と触れ合う良い一日となりました。

企業スポーツ推進

実業団駅伝の最高峰ニューイヤー駅伝で2度の入賞を果たしている陸上部、2004年シーズンより日本リーグ(W1リーグ)へ昇格し、ますます士気の高まる女子バスケットボール部「トヨタ紡織サンシャイン・ラビッツ」、オリンピック強化指定選手を輩出するなど、世界レベルでの活躍が期待されるボート部の各クラブが本格始動しました。



ニューイヤー駅伝入賞をめざす陸上部



2004年シーズンより日本リーグ(W1リーグ)へ昇格した女子バスケットボール部「サンシャイン・ラビッツ」



北京オリンピック出場をめざすボート部

決算概要

連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科目	当期(17.3.31現在)	前期(16.3.31現在)
(資産の部)		
流動資産	173,424	35,794
現金及び預金	30,219	5,886
受取手形及び売掛金	105,428	19,309
有価証券	3,132	3,219
たな卸資産	17,825	3,926
その他の流動資産	17,018	3,563
貸倒引当金	△ 200	△ 111
固定資産	138,230	35,638
有形固定資産	113,273	30,450
建物及び構築物	44,260	10,873
機械装置及び運搬具	42,547	11,841
工具器具備品	8,257	3,354
土地	15,614	2,953
建設仮勘定	2,593	1,426
無形固定資産	2,615	638
連結調整勘定	105	439
その他	2,509	199
投資その他の資産	22,342	4,549
投資有価証券	7,478	2,880
繰延税金資産	10,739	1,060
その他	4,282	620
貸倒引当金	△ 158	△ 12
合計	311,655	71,433

(単位:百万円)

科目	当期(17.3.31現在)	前期(16.3.31現在)
(負債の部)		
流動負債	151,308	32,698
支払手形及び買掛金	104,711	17,592
短期借入金	13,239	4,923
一年内返済の長期借入金	3,334	1,251
未払費用	17,670	5,445
その他の流動負債	12,350	3,484
固定負債	25,935	7,165
長期借入金	2,897	3,136
退職給付引当金	18,062	3,078
役員退職慰労引当金	523	658
その他の固定負債	4,452	291
負債計	177,243	39,864
(少数株主持分)		
少数株主持分	24,941	2,173
(資本の部)		
資本金	8,400	4,933
資本剰余金	9,019	2,797
利益剰余金	94,677	21,578
その他有価証券評価差額金	1,113	959
為替換算調整勘定	△ 3,412	△ 467
自己株	△ 326	△ 405
資本計	109,470	29,396
合計	311,655	71,433

連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	当期(16.4.1~17.3.31)	前期(15.4.1~16.3.31)
売上高	456,311	118,553
売上原価	419,809	106,301
売上総利益	36,501	12,252
販売費及び一般管理費	18,634	6,920
営業利益	17,867	5,331
営業外収益	2,788	421
受取利息及び配当金	423	23
その他の営業外収益	2,364	398
営業外費用	1,545	438
支払利息	418	151
その他の営業外費用	1,127	287
経常利益	19,109	5,314
特別損失	2,335	—
減損損失	657	—
福利厚生制度変更に伴う過年度費用	109	—
残存価額変更による過年度償却費	1,567	—
税金等調整前当期純利益	16,774	5,314
法人税、住民税及び事業税	6,892	3,131
法人税等調整額	△ 1,186	△ 860
少数株主利益	2,088	205
当期純利益	8,979	2,839

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	当期(16.4.1~17.3.31)	前期(15.4.1~16.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー(※1)	12,746	9,814
投資活動によるキャッシュ・フロー(※2)	△ 19,582	△ 9,961
財務活動によるキャッシュ・フロー(※3)	2,990	△ 1,213
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 338	△ 315
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△ 4,183	△ 1,675
現金及び現金同等物の期首残高	9,105	10,781
合併による現金及び現金同等物の増加	25,142	—
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加	1,816	—
現金及び現金同等物の期末残高	31,881	9,105

(※1) 営業活動によるキャッシュ・フローとは営業活動で生じる現金収支を表します。

(※2) 投資活動によるキャッシュ・フローとは設備投資や出資といった投資活動で生じる現金収支を表します。

(※3) 財務活動によるキャッシュ・フローとは資金の調達・返済、配当金の支払いといった財務活動で生じる現金収支を表します。

貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科目	当期(17.3.31現在)	前期(16.3.31現在)
(資産の部)		
流動資産	105,767	31,519
現金及び預金	4,065	4,432
受取手形及び売掛金	79,056	18,478
有価証券	2,630	2,687
たな卸資産	7,464	2,685
その他の流動資産	12,634	3,348
貸倒引当金	△ 84	△113
固定資産	112,206	31,200
有形固定資産	65,845	22,122
建物及び構築物	27,563	8,563
機械装置及び運搬具	19,669	7,697
工具器具備品	6,462	3,206
土地	12,114	2,603
建設仮勘定	36	51
無形固定資産	303	22
投資その他の資産	46,057	9,055
関連有価証券	2,038	1,476
関係会社株式・出資金	28,062	6,256
その他の投資	16,088	1,334
貸倒引当金	△ 132	△ 12
合計	217,973	62,720

(単位:百万円)

科目	当期(17.3.31現在)	前期(16.3.31現在)
(負債の部)		
流動負債	105,783	26,011
支払手形及び買掛金	81,876	16,050
一年内返済の長期借入金	1,250	1,250
未払費用	14,041	4,932
その他の流動負債	8,612	3,776
固定負債	20,783	7,053
長期借入金	1,875	3,125
退職給付引当金	17,052	3,062
役員退職慰労引当金	481	651
その他の固定負債	1,374	215
負債計	126,566	33,064
(資本の部)		
資本金	8,400	4,933
資本剰余金	9,019	2,797
利益剰余金	73,202	21,370
その他有価証券評価差額金	1,112	959
自己株式	△ 326	△ 405
資本計	91,407	29,655
合計	217,973	62,720

損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	当期(16.4.1~17.3.31)	前期(15.4.1~16.3.31)
売上高	323,855	104,901
売上原価	301,444	93,873
売上総利益	22,411	11,027
販売費及び一般管理費	12,744	6,161
営業利益	9,666	4,865
営業外収益	2,445	449
受取利息及び配当金	1,612	87
その他の営業外収益	833	361
営業外費用	940	355
支払利息	69	99
その他の営業外費用	871	255
常利	11,171	4,959
特別損失	1,901	—
減損損失	242	—
福利厚生制度変更に伴う過年度費用	109	—
残存価額変更による過年度償却費	1,548	—
税引前当期純利益	9,270	4,959
法人税、住民税及び事業税	2,920	2,920
法人税等調整額	△1,320	△827
当期純利益	6,594	2,865
前期繰越利益	848	788
合併引継未処分利益	6,524	—
中間配当額	366	266
当期末処分利益	13,600	3,388

利益処分案

(単位:百万円)

科目	当期(16.4.1~17.3.31)	前期(15.4.1~16.3.31)
当期末処分利益の処分		
当期末処分利益	13,600	3,388
特別償却準備金取崩額	56	9
固定資産圧縮積立金取崩額	84	50
合計	13,741	3,447
これを下記のとおり処分いたします。		
株主配当金	1,216	332
1株につき6円50銭 (普通配当5円50銭 記念配当1円00銭)		1株につき5円00銭 (普通配当5円00銭)
取締役賞与金	189	99
監査役賞与金	18	5
特別償却準備金	—	61
別途積立金	9,000	2,100
次期繰越利益	3,316	848
その他資本剰余金の処分		
その他資本剰余金	5	—
これを下記のとおり処分いたします。		
その他資本剰余金次期繰越高	5	—

会社の概況

● 株式の状況

(平成17年3月31日現在)

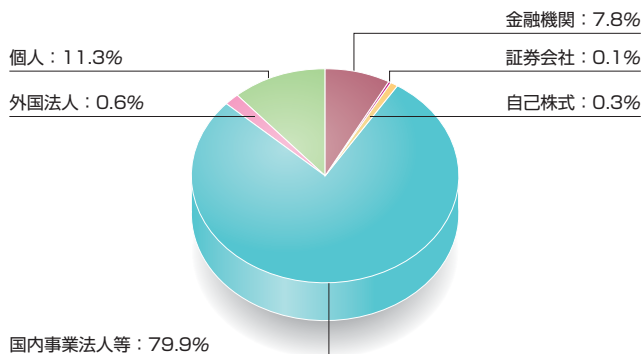
1) 株式の総数

発行する株式の総数 500,000,000株
発行済株式の総数 187,665,738株

2) 株式数

5,717名

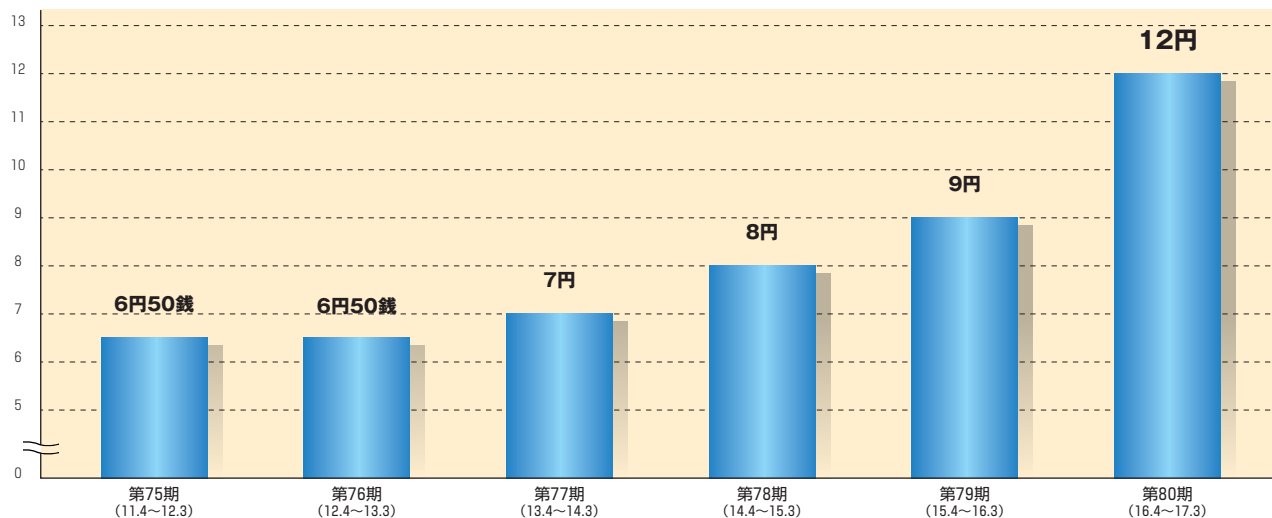
3) 所有者別株式分布状況



4) 大株主 (上位10名)

株主名	株式数
トヨタ自動車株式会社	87,873,995株
東和不動産株式会社	18,346,209株
株式会社デンソー	12,192,100株
株式会社豊田自動織機	8,756,062株
日本発条株式会社	8,220,525株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	5,331,700株
トヨタ車体株式会社	5,016,000株
豊田通商株式会社	4,930,100株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,411,500株
トヨタ紡織従業員持株会	1,749,718株

● 配当金の推移



会社概要

(平成17年3月31日現在)

設立 ● 昭和25年5月
 資本金 ● 8,400百万円
 従業員数 ● 6,476名
 本社 ● 愛知県刈谷市豊田町一丁目1番地

国内拠点

(平成17年3月31日現在)

刈谷工場	木曾川工場	田原工場
猿投工場	岐阜橋工場	いなべ工場
大口工場	土橋工場	堤工
高岡工場	下山工場	東京営業所
藤岡工場	御殿場工場	大阪営業所
豊橋北工場	東京工場	関東センター
豊橋南工場	堤北工場	
豊橋東工場	尾西工場	

役員の状況

(平成17年6月22日現在)

取締役および監査役

取締役会長	好川純一	常務取締役	本輝恒	取締役	小川王幸
取締役社長	本並正直	常務取締役	藤川典一	常勤監査役	植田豊
取締役副社長	豊田周平	常務取締役	小野博祥	常勤監査役	池田年
取締役副社長	土肥義彦	常務取締役	鳥居立雄	常勤監査役	北山邦幸
専務取締役	澤崎忠昭	常務取締役	村瀬英己	監査役	渡辺捷昭
専務取締役	今泉潔	常務取締役	中川泰	監査役	石川忠司
専務取締役	野口満之	取締役(常務待遇)	内藤正	監査役	岡部弘
常務取締役	横内則之	取締役	岡本一雄		

執行役員

常務執行役員	寺坂邦彦	常務執行役員	伊藤文隆	執行役員	桂木正樹
常務執行役員	鈴木啓一	執行役員	板谷秀実	執行役員	鈴木雅史
常務執行役員	澤鎬一	執行役員	島田則之	執行役員	上田広司
常務執行役員	栗谷本強	執行役員	千石郁夫	執行役員	酒井賢
常務執行役員	川窪英夫	執行役員	田口喜夫	執行役員	宮田徹
常務執行役員	渡辺俊充	執行役員	飯田耕次	執行役員	薦木俊行
常務執行役員	清原國彦	執行役員	古澤昭	執行役員	清水匠
常務執行役員	柴田和民	執行役員	寺坂幸一	執行役員	山本直
常務執行役員	小林伸行	執行役員	原保信		

会計監査人 中央青山監査法人

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月
配当金支払株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施するときの中間配当金支払株主確定日は9月30日であります。
基 準 日	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載された株主(実質株主を含む)をもって、その決算期に関する定時株主総会において権利を行使することができる株主とします。その他必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
株 式 名 義 書 換 名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 〒100-0005 UFJ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 所	東京都江東区東砂七丁目10番11号 〒137-8081 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5683-5111(代表)
取 次 所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 本店および全国各支店 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話無料) 0120-232-711(オペレータ対応) 0120-244-479(音声自動応答・用紙のご請求専用) ホームページアドレス http://www.ufjtrustbank.co.jp/
公 告 掲 載 方 法	電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。 http://www.toyota-boshoku.co.jp/jp/ ※「電子公告制度」が新設されたことから、当社の公告の方法を中日新聞および日本経済新聞への掲載から原則として電子公告に変更することが第80回定時株主総会において決議されました。
上 場 証 券 取 引 所	東京および名古屋の各証券取引所
本 社 所 在 地	愛知県刈谷市豊田町一丁目1番地 〒448-8651 電話(0566)23-6611(代表)

